



レストランアリのンの オススメの一品！冷麺（냉면）

今回は韓国で夏の一品として定番の冷麺を紹介します。
冷麺は韓国で古くから食べられてきた麺料理の代表的な一品で、そば粉で出来た麺を冷たいスープで食べる水冷麺（물냉면 / ムルネンミョン）と辛い味噌でまぜて食べるビビン冷麺（비빔냉면 / ビビムネンミョン）の2種類があります。

本格的な夏の時期に入り、アリランでもランチメニューで冷麺を注文するお客様が増えてきているそうです。

牛肉でとったスープ（육수 / ユッス）に、麺をはじめ、酢

で和えたキュウリや大根、そしてゆで卵と肉が盛り付けられます。からしとお酢をたっぷり入れて食べるのがおすすめです。



2012年7月までの その他の活動

作家・具孝書さんトークイベント開催



新しい韓国の文学シリーズ（クオン社刊）の第3巻として刊行された『長崎パパ』（大山文学賞受賞作）の著者である作家・具孝書さんをお招きしてのトークイベントが4月21日、YMCA9階ホールで開催されました。故郷である江華島で過ごした子どもの頃の話に始まり、文学者としての成長過程や、今回刊行された『長崎パパ』の創作背景にいたるまで、実にさまざまな話をとても気さくに語ってくださいました。著者ご本人による作品朗読の時間や、翻訳を担当されたYY翻訳会の皆さんにお話をうかがう時間もありました。プログラム終了後に行われた懇親会の会場では、韓流ドラマやK-POPに続き関心が高まりつつあるK-文学を紹介するプログラムを、今後もぜひ継続して開催してほしいという声が多く聞かれました。

日本語学校7月期開講



日本語学校は7月2日に7月期の入学始業式が行われ、新学期がスタートしました。同時にこの日から、短期研修「夏の東京体験」も始まり、入学始業式の後はレギュラークラスの学生と短期研修生との交流会も行われました。「夏の東京体験」は3週間の日程で、毎日の日本語授業のほか、ボランティアとの交流会、ホームステイなどのプログラムが実施されます。

7月4日には、日本文化体験の授業として、ゆかたの着方を習いました。普段なかなか着る機会のないゆかたを着て、学生たちは皆たいへん喜んでいました。

今後の予定 2012年7月～9月

【東京韓国YMCA】

- 7/10（火）東京韓国YMCA理事会
- 7/28（土）～8/15（水）日本語学校夏休み
- 7/29（日）～8/4（土）韓国語講座特プロ「建国大学で学ぶ韓国語」
- 9/1（土）関東大震災89周年合同追悼礼拝
関東大震災で虐殺された朝鮮人犠牲者を追悼し、悲劇を繰り返さないように心に刻むために、毎年9月1日の朝、日本と韓国のクリスチャンが共に集い合同で礼拝をお捧げしています。東京YMCA、東京聖市化運動本部との共催。午前7時30分開始。

【関西韓国YMCA】

- 7/13（金）第105回教界指導者早天祈祷会
- 7/14（土）関西韓国YMCA理事会
- 7/28（土）～29（日）枚方サマースクール
- 8/1（水）～8/2（木）生野つながりキャンプ



YMCA 東京日本語学校学生募集中

＜編集後記＞

- 7月に結婚式を挙げるスタッフがいます。お幸せに。おめでとうペーさん！（朴）
- 気仙沼にきましたが、周辺地域にはそのまま放置された場所がたくさんあります。まだまだです。忘れがちでしたが、今一度みんなでも祈りましょう！（才）
- 先日ベトナム、香港、シンガポールを訪ねましたが、日本語学校の卒業生や現地Yのスタッフがどこでも大歓迎してくれました。Yの家族のあたたかさを感じました。（た）
- 今月号はお休み。（白）
- この編集作業をしているPCのデスクトップ画像は、岩手・宮古で撮ったYMCAボランティアチームの集合写真です。（AT）

KAKEHASHI かけはし 2012 July vol.8

発行人：金秀男 発行：在日本韓国YMCAアジア青少年センター
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5
TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633
http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/
ayc@ymcajapan.org



『かけはし』次号は2012年10月発行予定です。

ツイッター @zainchiymca Facebook Korean YMCA in Japan
より良い紙面づくりにために、ご意見・ご感想等お寄せください。



在日本韓国YMCA
アジア青少年センター
Korean YMCA in Japan
Asia Youth Center



ソウルYMCA研修を終えて

キムホンミョン
金弘明(YMCAスタッフ)

人事交流の一環として、昨年の9月26日より約9ヶ月に及ぶソウルYMCAでの研修を終え、7月1日に戻ってきました。内容は語学習得、ソウルYMCAが歴史の中で果たしてきた役割、現在の働き、そしてYMCAに関わる人々との交わりです。

母国語であるとはいえ、語学学習自体が苦手な私にとって、本格的に取り組む機会を先延ばしにしてきましたが、今回とても恵まれた機会となり、また逃げ道なしのものとして取り組みました。延世大学語学堂で5,6級と、2期6ヶ月にわたって様々な国から来ている若い学生に混じって勉強しました。在日はもちろん、中央アジア、ロシア、中国、アメリカ、カナダ、南米の国々から来ている僑胞たちの2,3世とも出会いました。近代史において植民地支配、それへの闘争、離散、強制移住、移民など厳しい時代を乗り越え、母語が違う人々がソウルで言葉や文化を学び韓国語でコミュニケーションをとる姿にひとしお感慨深いものがありました。

ソウルYMCAは大きな組織ですが、定期的な職員親交会、祈祷会、会議などスタッフ同士が顔をあわせる機会が多く、思



語学研修中のひとコマ（韓国文化体験）

いのほか多くの人と親しくなることができました。ソウルYMCAの事業は自主プログラム、委託事業、そして効率的な貸館運営に分けられます。また国際交流も活発で、若いスタッフへの投資を積極的に行っており、国際的な視点を持っているYMCAであるともいえます。また、多くのプログラムや社会的事業に大学生を中心としたボランティアはもちろん高校生のボランティア組織High-Yも活発でした。（第2面に続く）

聖書に聴く 第8回

朴憲郁 牧師（パク・ホンウク / 東京韓国YMCA理事、東京神学大学教授）

アメリカからのナイジェリア宣教活動を終えて、隠退した一人の高齢の女性宣教師に死期が近づき、臨終の場で声を絞って友人に頼みました。「もう一度、聖書の言葉を語り聞かせてくれますか」と。そして、友の口から御言葉を聞きながら、彼女は静かに息を引き取りました。彼女にとって聖書は、自分に差し迫る死をも乗り越える希望の言葉でした。

聖書は人類の古典文学の名著として今もベストセラーの教養書です。明治期以後の近代化において、多くの文学者もキリスト教精神の源流である聖書を読み、そこから何か新しい人間観と世界観を得ようと努めました。

しかし、聖書は人生の教訓や知恵や教養を提供するのみでなく、生と死という究極的な問題について答え、希望を語ります。

昨年3月の大地震で多くの尊い命を亡くし、生活と職場の財が破壊された状況の中で、人々は嘆きと苦しみを乗り越えて立ち上がり、復興を急いでいます。その中で、被災地域では教会の門を叩く人々が少なくありません。それは、地上で

の安全な生活の再建と確保という緊急な課題を越えて、生と死という人間の根本的、宗教的な現実にあふつかって、不朽の命と救いを真剣に求めるからです。

諸宗教はそれぞれに、この問題に答えようとはしますが、キリスト教は永遠の命と希望の源泉を聖書の中に探し求めます。ナザレ人イエスの生涯とその最後に起こった十字架と復活の出来事は、弟子たちを恐れと失望に陥れる厳しい現実をも圧倒する神の支配の現実でした。そのことを多様に証言する聖書を読んで、今を生きる私たちは慰めと希望を得、それを縦軸にして、横軸となる地上の生を意義づけ、立て直し、勇氣をもって生きます。

衣食住に思い煩う私たちを戒めた主イエスの言葉（マタイ6:31、33）を心にためたいと思います。「思い悩むな。…何よりもまず、神の国（＝支配）と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」



アンサン
北漢山にも登りました

(第1面より) 運営的には社会の変化とともに、既存のプログラムを強化しつつも、新たなチャレンジをしています。実際にはすべてが思うとおりに進んでいるわけではありませんが、それらの課題が共有され、大胆に方向転換をするなど、巨大な組織なのに変化を恐れないという印象を強く受けました。

ソウルYMCAの活動を通して、あるいは自身の関心もあった、様々な市民団体を訪問することもできました。平和、歴史、人権、多文化、環境、貧困、在外同胞選挙、パレスチナ、コミュニティ作り、社会的企業、日韓の市民連帯などをテーマとするグループでした。また、大邱YMCA、光州YMCA、郡山YMCAをはじめ、いくつかのYMCAを訪問することもできま

した。

韓国社会には高い授業料、若者の就職難、低出産率、自殺率の高さ、貧困、多文化など様々な葛藤があります。その解決、アプローチの方法には異なる意見がぶつかることがあります。しかし、問題、葛藤自体を認識することについては、社会に広くコンセンサスが得られていると思いました。そこにある課題を避け見えないように振舞うのではなく、認識し、どう解決を図るか、という韓国のダイナミズムさには、光と希望を見たように思います。また、そこにYMCAが果敢に取り組んでいる姿に感銘を受けました。



アンサン
「多文化家族童謡のつどい」の様子 (安山にて)



キムカンジョ 金廣照新理事長就任

6月12日、2012年度第1回在日本韓国YMCA理事会が開催され、任期満了となった金勇聖理事長の後任として、金廣照理事が新理事長に選出されました。

金廣照新理事長は1949年横浜のご出身で、上智大学文学部卒業後、在日本韓国YMCAと横浜YMCAで20年間にわたってYMCAスタッフとして奉職され、その後、在日本大韓国民団神奈川県本部副団長、かながわ外国人すまいサポートセンター代表などを歴任されました。2000年に東京韓国YMCA理事に就任以来、東京韓国YMCA代表理事、在日本韓国YMCA副理事長などを務められました。在日大韓基督教会横浜教会の長老でいらっしゃいます。

理事会で就任のあいさつをする金廣照新理事長

2012年5月のプログラム

2012YMCAフェスティバル

関西韓国YMCA韓国民俗芸術科公演 盛大に開催

5月19日(土)午後6時半より2012YMCAフェスティバル/関西韓国YMCA韓国民俗芸術科公演『ナルゲ(翼)』がクレオ大阪中央(大阪市天王寺区)にて行われました。

出演者は総数29名で2時間にわたって演技が繰広げられました。1000名に近い観客は躍動感みなぎるプログラムにはリズムを取りながら、また緊張した静謐な時間が流れる演目には息をのむように舞台に釘付けになりました。

公演全体は民芸科の専任講師、金君姫先生が指導されました。この公演は3年に一度行われており、準備にじっくり時間をかけています。その分、観客はもちろん出演者も楽しみにしていました。

内容はもちろんですが、チケットも一人一人が知り合いに声をかけて完売したという運営面でも大きな成功をおさめた公演でした。表舞台には出ていませんでしたが、これらを支えたのは40名にも及ぶ裏方、ボランティアの力でした。



「見る・知る・食べる」第4回オリーブ平和映画祭開催



映画を通してパレスチナの現状を多くの人に知ってもらいたい、という目的で始まった「オリーブ平和映画祭」も、今年で第4回目を迎えました。なぜ、在日本「韓国」YMCAで、パレスチナの映画を上映するのでしょうか。在日本韓国YMCAは、100周年を迎えた2006年から、東エルサレムYMCAとの交流を持ち始めました。具体的には、東エルサレムYMCAとパレスチナYWCAによる「オリーブ収穫プログラム」への日本からの参加者の派遣、パレスチナの子ども達の「エルサレム訪問プログラム」への支援などをおこなっています。そして、国内での活動の一環として始められたのが、このオリーブ平和映画祭です。

今年上映したのは、長年パレスチナ取材している古居みずえ監督の最新作、『ぼくたちは見た～ガザ・サムニ家の子どもたち』(「第3回座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル」大賞受賞作品)。2008年12月のガザ侵攻では、300人以上の子ども達が犠牲となりました。爆撃の下で子ども達は何を経験し、そしてその後どんな暮らしをしているのか——自分の身に起きた、語りにくいであろうことを、「忘れたくない」と

懸命に語る子ども達の姿、そして同じ苦しみを経験した親戚同士が協力し合う姿が、古居監督のカメラを通して、印象的に描かれています。

上映に併せて、昨年オリーブ収穫プログラムに参加した千代木ひかるさん(横浜YMCAスタッフ)による解説、パレスチナで作られたフェアトレードのオリーブオイルの試食販売(パレスチナ・オリーブより購入)、そしてガザYMCAの子どもたちが東日本大震災に寄せて描いた絵の展示などもおこないました。まさに、パレスチナのことを五感で感じていただけるような場になったと思います。

今後も、パレスチナを身近に感じられるようなプログラムづくりに努めていきたいと思います。

最後に、今回の映画祭開催にあたり、古居みずえ監督にはこちらのわがままな要望に応えていただき、大変お世話になりました。この場を借りて、感謝申し上げます。

※映画祭の収益金は、東エルサレムYMCAとの交流活動、現地におけるプログラム支援のために用いられます。

